

第88期

HIRANO TECSEED Co.,Ltd.

中間報告書

平成23年4月1日から平成23年9月30日まで



株式会社 ヒラノテクシード

| 証券コード | 6245 |

素材を創造させる“塗”

私たちヒラノテクシードは1935年の創業以来、熱と風の技術を追求し、“塗る”技術を融合させ、時代の流れの中で進化する、素材を化学し、高品質並びに高付加価値の製品を生み出す設備を提供する『コーティング装置のトップ企業』として成長してまいりました。

薄型テレビや携帯電話、さらには太陽電池や燃料電池等さまざまな製造現場を支えるのが当社の技術です。

先端技術

コア
テクノロジー

主力商品

ヒラノグループ

株式会社ヒラノテクシード
ヒラノ技研工業株式会社
株式会社ヒラノエンテック
ヒラノ光音株式会社

FPD用光学機能性フィルム

フラットパネルディスプレイには、さまざまな機能性フィルムが使われています。当社は近年大型薄型テレビで脚光を浴びている液晶並びにPDP用ディスプレイパネルの中核を占める偏光板フィルム、反射防止フィルム、光拡散フィルム、電磁波防止フィルム、保護フィルム等の“機能性フィルム”を生産する精密クリーンコータを製造しております。



ディスプレイの前面板に貼り、画面の表面反射・映り込みを抑え、反射光を低減する反射防止フィルム等

塗
工
機
素材に多様な機能を持たせる

化学物質を素材に塗り、“薄い膜”を形成すると、素材だけでは不可能な多彩な機能を付加できます。

例えば、液晶やプラズマのFPD（フラットパネルディスプレイ）。フィルムに薄い膜をつくり、それを数種類貼り合わせることで、鮮明な画像が生まれます。この“膜をつくり”“貼り合わせる”のが当社の「塗工機」の役割です。



目立たないけれど、大切な仕事

“商品”は知っているけれど“どのような”道具で“どのように”つくられているかは、意外と知らないものです。当社では、創業以来培ってきた“熱”と“風”の技術【乾燥技術】に【コーティング技術】【ラミネーティング技術】【制御技術】を融合させ、お客さまに高精度な機械を提供し、数多くの商品の製造において重要な部分を担い社会に貢献してまいりました。

そして今、私たちはエネルギー分野を中心に環境に貢献すべく取り組

と“乾”の技術

フレキシブル基板（FPC）

携帯電話に代表されるモバイル端末は近年、薄型・軽量化が急速に進んできました。また、自動車関連でも耐熱性や屈曲性が厳しく要求されます。当社では、これらの分野に使用されるフレキシブル基板の原反となるポリイミドフィルムの成膜装置や、そのフィルムと銅箔などを張り合わせる機械を製造しております。



ポリイミドフィルムに銅箔を張り合わせてできたフレキシブル基板

高品質のフィルムを生み出す 薄膜成型装置

液晶・プラズマ・携帯電話などの電子回路のコア部品、フレキシブルプリント基板。この基板の元となる、極めて薄いポリイミドフィルムをつくるのが、当社の「薄膜成型装置」です。フィルムの厚さや品質の均一性が重要となるこの分野で、当社の装置は高い評価を得ています。



み、またさまざまな素材の製造プロセスに貢献すべく技術開発を行っております。

「エレクトロニクス」「高分子化学」「包装」「医療」「産業新素材」等、あらゆる分野において“塗る”“貼る”“乾燥する”“成膜する”という技術で当社の機械が係わっております。

目立たないけれど、大切な仕事です。



株主の皆さまへ

平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、第88期中（平成23年4月1日から平成23年9月30日まで）の決算を終りましたので、その概況につきましてご報告申し上げます。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成23年12月

取締役社長

三浦日出男

事業の概況

Review of Operations

事業の経過及び成果

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、中国・アジア等を中心とした輸出及び生産にも牽引されるとともに、東日本大震災後の景気減退からも、復興需要や生産活動が正常化に向かうなど緩やかな回復基調にあった一方で、電力供給不足や長期化する円高が懸念され先行き不透明な状況で推移いたしました。

また、世界経済においては、米国は依然高い失業率であり個人消費が伸び悩み、欧州でも債務不安による金融市場の混乱が続くなど、景気は減速感が払拭できないまま推移いたしました。

このような状況のもと、当社グループは、前期に引き続き環境エネルギー分野及び電気電子部材関連に注力し、高精度薄膜塗工機の拡販に努めてまいりました。

また、受注状況におきましては、海外顧客を中心とした光学機能性フィルム関連及びリチウムイオン電池関連の装置を中心に推移いたしました。

その結果、当中間連結会計期間の売上高は11,584百万円（前年同期比84.3%増）となり、利益面では営業利益は542百万円（前年同期比10.1%増）、経常利益は557百万円（前年同期比3.8%増）、中間純利益は356百万円（前年同期比25.8%増）となりました。

受注残高につきましては、16,558百万円（前期末比15.2%減）となりました。

通期の見通し

今後の見通しにつきましては、世界経済は緩やかながら回復傾向にあると思われるものの一部の新興国による景気の過熱感や、欧米における金融情勢問題等もあり、不安定な状況であります。

また、国内においても、東日本大震災後のサプライチェーンの復旧により生産及び需要も緩やかに回復しつつあります。しかし、長引く円高の影響等により輸出競争力の低下が生産活動に影響を及ぼす可能性があり設備業界においては不透明な状況が続くものと予想されます。

このような状況のもと、当社グループは変化の激しいグローバル経済下において、市場ニーズを的確に捉え、当社の特徴を活かした独自のコーティング技術を市場に提供してまいります。

そのため、高クリーン・超薄膜・ウェット&ドライ等の技術開発並びに生産環境の整備を進めてまいります。

現段階での通期連結売上高は22,000百万円、連結経常利益は1,100百万円、連結当期純利益は650百万円を見込んでおります。

業績ハイライト

Financial Highlights

連結売上高



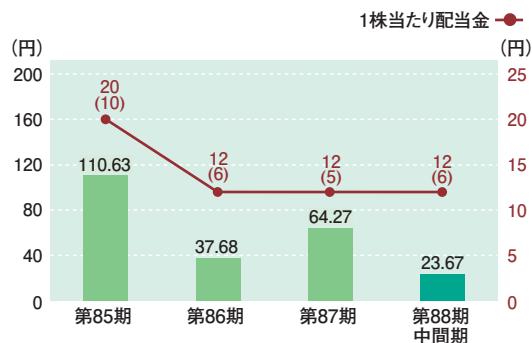
連結経常利益



連結中間(当期)純利益



連結1株当たり中間(当期)純利益／1株当たり配当金



(注) () 内は中間配当を表しております。

連結総資産／ROA



※ 当期純利益を採用しております。

連結自己資本／ROE



セグメントの状況

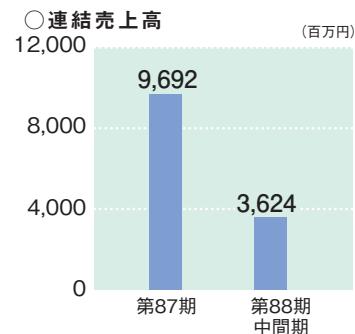
Segment Report

塗工機関連機器

各種コーティング、ラミネーティング装置並びにこれらに付随する乾燥・熱処理装置及びライン制御装置



塗工機

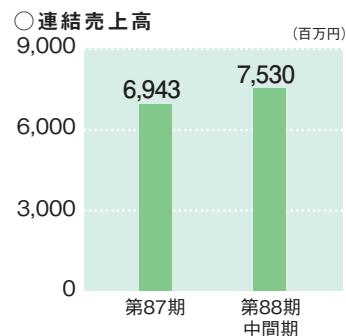


化工機関連機器

各種成膜装置、不織布・高機能繊維製造装置、フラットパネル塗布乾燥装置、真空蒸着装置並びにこれらに付随する乾燥・熱処理装置及びライン制御装置

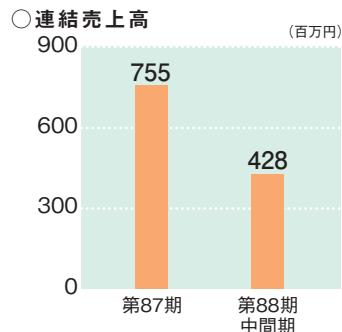


薄膜成型装置

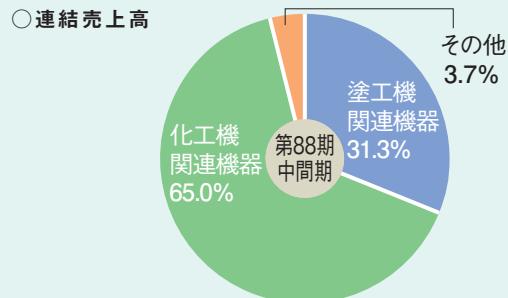


その他

染色整理機械装置、各種関連機器の部品の製造及び修理・改造等



セグメント別構成比



広がるタッチパネルの世界に欠かせないITOフィルム

今やタッチパネルは様々な機器に用いられています。代表的なスマートフォンやタブレット型端末、携帯電話、銀行ATM、カーナビゲーション、ポータブルゲーム機など身近にあふれています。

そのタッチパネルに欠かせない主要な部材がITO（透明導電性）（※1）フィルムです。

このITOフィルムの製造に当社グループ（ヒラノ光音株式会社）の技術が活かされています。

ITOフィルムとは、PETフィルムなどの透明なフィルムに、酸化インジウムにスズを添加した化合物をスパッタリング（※2）で薄膜コーティングしたフィルムです。

このスパッタリング装置を当社グループ（ヒラノ光音株式会社）が提供しています。

ヒラノ光音株式会社は、真空中によるフィルムのロールtoロール技術のパイオニアとして、様々な設備を提供してまいりました。

真空技術でより便利でより快適な、製品の提供をお手伝いします。

※1 ITO：Indium Tin Oxide＝
高い可視光透過性と導電性を有する。

※2 スパッタリングとは真空中で、成膜材料を分子・原子レベルで、フィルム等の基材に付着させる成膜方法です。



中間連結財務諸表

Consolidated Financial Statements

中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	前中間期 (平成22年9月30日現在)	当中間期 (平成23年9月30日現在)	前期 (平成23年3月31日現在)
資産の部	22,256	26,647	28,609
流動資産	17,983	22,236	24,115
固定資産	4,273	4,410	4,493
有形固定資産	3,020	2,766	2,880
無形固定資産	161	123	128
投資その他の資産	1,091	1,519	1,484
資産合計	22,256	26,647	28,609
負債の部	6,331	9,914	12,065
流動負債	4,943	8,733	10,703
固定負債	1,387	1,180	1,361
純資産の部	15,925	16,732	16,543
株主資本	15,825	16,683	16,433
資本金	1,847	1,847	1,847
資本剰余金	1,339	1,339	1,339
利益剰余金	13,042	13,902	13,651
自己株式	△404	△406	△405
その他の包括利益累計額	100	49	109
その他有価証券評価差額金	100	49	109
負債純資産合計	22,256	26,647	28,609

中間連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	前中間期 (平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで)	当中間期 (平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで)	前期 (平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで)
売上高	6,286	11,584	17,391
売上原価	4,973	10,132	13,969
売上総利益	1,313	1,451	3,422
販売費及び一般管理費	820	908	1,793
営業利益	493	542	1,628
営業外収益	51	40	91
営業外費用	7	25	16
経常利益	536	557	1,703
特別利益	6	—	2
特別損失	15	—	22
税金等調整前中間(当期)純利益	528	557	1,683
法人税・住民税及び事業税	256	191	753
法人税等調整額	△10	10	△37
少数株主損益調整前 中間(当期)純利益	283	356	967
中間(当期)純利益	283	356	967

point
1

流動資産

流動資産は前連結会計年度末に比べ1,878百万円減少し、22,236百万円となりました。その主な要因は現金及び預金が885百万円、受取手形及び売掛金が1,520百万円、仕掛品が253百万円増加しましたが、有価証券が4,444百万円減少したことによりです。

point
2

流動負債

流動負債は前連結会計年度末に比べ1,970百万円減少し、8,733百万円となりました。その主な要因は支払手形及び買掛金が1,135百万円、1年内返済予定の長期借入金85百万円、未払法人税等が449百万円、前受金が103百万円それぞれ減少したことによりです。

point
3

利益剰余金

中間純利益が356百万円計上されています。

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	前中間期 (平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで)	当中間期 (平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで)	前期 (平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで)
point 4 営業活動によるキャッシュ・フロー	574	△3,090	3,201
point 5 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 679	3,129	△4,981
point 6 財務活動によるキャッシュ・フロー	165	△ 304	55
現金及び現金同等物の増加額(△は減少)	60	△ 265	△1,724
現金及び現金同等物の期首残高	10,344	8,620	10,344
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	10,404	8,354	8,620

point
4

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によって使用されたキャッシュ・フローは3,090百万円（前年同期は574百万円の収入）となりました。これは主に、税金等調整前中間純利益が557百万円になったこと及び、売上債権が1,623百万円増加したこと、また、仕入債務が1,130百万円減少したことによります。

point
5

投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によって得られたキャッシュ・フローは3,129百万円（前年同期は679百万円の支出）となりました。これは主に、有価証券を取得したことにより599百万円の支出があったこと及び、有価証券を売却したことにより3,930百万円の収入があったことによります。

point
6

財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によって使用されたキャッシュ・フローは304百万円（前年同期は165百万円の収入）となりました。これは主に、短期借入金の増減額が50百万円増加したこと、長期借入金の返済を247百万円行ったこと、また、配当金の支払を105百万円行ったことによります。

配当のお知らせ

当社グループは、株主各位への配当金は、企業の収益状況により決定するものと考えており、安定的な配当の維持を基本としております。

内部留保資金につきましては、長期的展望に立った新規技術の開発・事業の拡大及び経営体制の効率化・省力化の為の基礎資金として充当し、企業体質と企業競争力の強化に取り組んでまいります。

当中間期の利益配当金につきましては、この基本方針に基づき1株当たり6円とさせていただきます。

会社の概況

Company Information

(平成23年9月30日現在)

社名	株式会社 ヒラノテクシード
英文社名	HIRANO TECSEED Co.,Ltd.
創業	昭和10年6月1日
設立	昭和24年7月25日
資本金	1,847,821,888円
従業員数	238名
事業所 本社	〒636-0051 奈良県北葛城郡河合町大字川合101番地の1 電話 (0745) 57-0681
東京支店	〒103-0023 東京都中央区日本橋本町4-8-16 (千城ビル9F) 電話 (03) 3242-5441
インターネット ホームページ	http://www.hirano-tec.co.jp/

役員

取締役社長 (代表取締役)	三浦 日出男
常務取締役	馬場 英樹
常務取締役	松葉 茂美
取締役	桑原 茂
取締役	入江 伸晶
取締役	定安 一男
取締役	松本 剛
常勤監査役	逸崎 正
監査役	高谷 和光
監査役	田中 寛治郎

(注) 監査役高谷和光氏並びに田中寛治郎氏は、社外監査役であります。

子会社

ヒラノ技研工業株式会社 (産業用機械器具製造)
株式会社ヒラノエンテック (繊維機械等部品製造)
ヒラノ光音株式会社 (真空装置等製造)

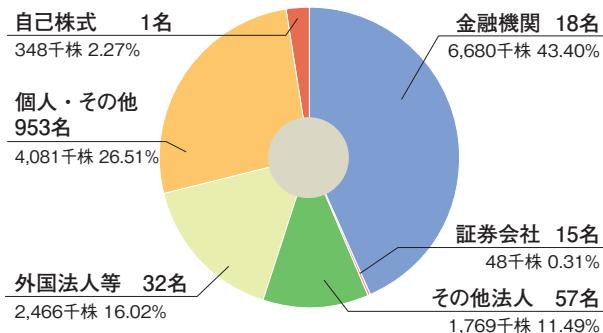
株式の状況

発行可能株式総数	50,000,000株
発行済株式総数	15,394,379株
株主数	1,076名
大株主	

株主名	当社への出資状況	
	持株数 千株	出資比率 %
明治安田生命保険相互会社	1,450	9.64
ヒラノ会	1,168	7.76
伊藤忠商事株式会社	1,000	6.65
オーエム04エスエスピー クライアントオムニバス	984	6.54
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社 (信託口)	958	6.37
株式会社三菱東京UFJ銀行	737	4.90
株式会社りそな銀行	731	4.86
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社 (信託口)	694	4.61
ザチエスマンハッタンバンク エヌエイロンドンエスエルオムニバス アカウント	461	3.06
メロンバンクエービーエヌアムロ グローバルカストディエヌブイ	303	2.01

(注) 1. 上記の他、自己株式数348,786株を保有しております。
2. 出資比率は自己株式を控除して計算しております。

所有者別株式分布状況



株主メモ

Information For Shareholders

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月中
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所 (お問合せ先)	〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 電話（通話料無料）：0120-094-777
上場証券取引所	大阪証券取引所 市場第二部
証券コード	6245
公告掲載方法	大阪市において発行する日本経済新聞

※株式関係のお手続き用紙のご請求は、次の三菱UFJ信託銀行の電話及びインターネットでも24時間承っております。

電話（通話料無料）：

0120-244-479（本店証券代行部）

0120-684-479（大阪証券代行部）

インターネットホームページ：<http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

ヒラノテクシード ホームページ

<http://www.hirano-tec.co.jp/>

ホームページで当社の事業活動、商品の案内、投資家情報などに関する詳しい情報をご覧ください。ぜひご活用ください。





この中間報告書は、環境に配慮し、
植物油インキを使用しております。